



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだよ

第295号

2020年6月11日発行

編集・発行：情報委員会

2019～20年度 テーマ

素敵に輝いて 素敵なクラブライフを！

第 295 回 例会 (中止)

4 月定例会に引き続き、5 月 14 日 (木) の第 295 回プロバスクラブ定例会も中止となりました。3 月定例会から 3 か月連続しての休会となりました。理由は新型コロナウイルス蔓延防止の為に、集会等の自粛が求められているからです。

従って、今月号も例会等の事業報告はありませんが、会長のメッセージとその後の状況等についての幹事報告、今後の見通し、会員の投稿 2 件等を掲載しました。なお、秋に予定されている創立 25 周年行事については 7 月号で情報をお伝えします。

会員の皆様へ

会長 飯田 富美子

プロバスクラブのみなさま、長い Stayhome の期間が続いてきましたが如何お過ごしでしたでしょうか。

昨年来続いている新型コロナウイルス感染拡大は 2 月例会以降 3 月・4 月・5 月例会の



中止、さらにはクラブのメイン事業である生涯学習サロンも中止となり、皆様とお会いできない淋しい日々を過ごしてきました。

5 月の後半になり流行もようやく下火になりつつあり、緊急宣言も解除され、日常生活が僅かずつでも戻ってくる兆しが見えてきました。しかし、コロナ禍の中では日本経済、世界経済は経験のない大打撃を受けています。今後多くの困難を克服し、弛まない努力によって、経済活動の一日も早い回復を祈るのみです。

このコロナ禍の終息を願い、日本のすべての人々

が普通の生活に早く戻れますようにと願い、第 2 波、第 3 波も危惧される今は、プロバスクラブとしてもできるだけ細心の注意を払いながら、如何にして繋がりを継続し、クラブライフを構築していくかが大きな課題となります。

幸い私たちは今回の経験により、少なくとも自分を守り、周りの人を守る知恵と工夫を勉強することができました。これからも「With・コロナ時代」を少しずつでも前に進めてまいりたいと思います。

6 月の例会では新年度の委員会組織の陣容が発表されます。私の在任中はコロナ禍の混乱によって、本クラブの中心的な事業である「生涯学習サロン」も中止となり、例会も 3 月以降 3 ヶ月も開けませんでした。残念ながら「達成感・燃え尽き感」のない 1 年間となりましたが、思いの一端を次年度に託し、今後もクラブの活性化に尽くしてまいりたいと思います。

今年度の最後の例会では皆様とお会いできることを楽しみにしています。時節柄どうぞお身体をご自愛ください。

幹事報告

田中丸の新役員体制を承認

幹事 一瀬 明

まことに残念ながら 3 か月連続で 5 月の例会も中止のやむなきに至りました。

5 月 7 日 (木) 5 月度の理事会をびおらで、換気を良くし、席も離して、全員マスク着用という万全の感染防止対策をした上で開催いたしました。

議題は「1 週間後の例会を中止にすると 3 か月連続になってしまうけどどうするか、またその場合来期の役員を決める大事な臨時総会をどういう形でやるか」ということでした。しかし、緊急事態宣言発令中という客観情勢の元ではいかんともしがたく

「例会中止はやむなし」と理事全員の認識は一致、中止を決議いたしました。ただ臨時総会は来期役員決定という大事なミッションがあるゆえ議論の結果「書面議決」の方式をとることいたしました。

そして5月12日書面表決書を臨時総会議案とともに会員全員に郵送する（併せてプロバスだより294号と宇宙の学校後援会活動報告を同封）手続きをとりました。

臨時総会議案表決は会員の皆さんにはお手数をとらせることになりましたが、FAX・メール・電話などの手段で対応していただき5月19日に締め切りました。その結果未表決者（賛成とカウント）を含めて全会一致で承認可決と相成りました。25年続いている我々のプロバス活動を途切らすわけにはまいりません。厳しい環境下ではありますが、新たな「田中丸」が船出する体制が整いました。（「役員人事一覧表」を本稿の後に掲載）

さらに5月21日に新旧三役が集まり、6月から7月にかけてのスケジュールの確認を行いました。本年度のまとめと来期のスタートという当クラブにとって大事な期間にあたります。まず直面する課題は従来開催されている6月例会と懇親会をどうするかであります。このプロバスだより295号がお手元に届くころには決まっていることですが、例会と懇親会を切り離して別の日に設定することとし、例会の場所の選定や感染防止策については鋭意検討中です。懇親会もできたらやりたいということで実施できる条件を模索中です。

5月28日に6月の理事会を前倒しで開催し、そのあたりのことを検討の上決定する予定であります。なお、理事会後従来行っておりました副委員長を交えた懇親会は中止いたします。ちょうど本稿を書いている5月25日に緊急事態宣言解除が伝えられております。小生の持論であります「日本は上は弱い現場が強い」「日本方式、日本モデル」が奏功しつ



（三密を避けての5月理事会の様子・びおら）

つあるのは嬉しい限りです。まだ油断はできませんが。

6月以降皆さんと元気にお会いする機会が持てますよう切に願って5月の幹事報告といたします。

東京八王子プロバスクラブ

2020～2021年度		役員人事	
理事	119	田中 信昭	会長
理事	124	河合 和郎	副会長
理事	136	持田 律三	幹事
理事	26	下山 邦夫	会員
理事	114	飯田富美子	会員
理事	118	馬場 征彦	会員
理事	127	内山 雅之	会員
理事	131	山口 三郎	会員
理事	139	一瀬 明	会員
理事	141	齊藤万理子	会員
理事	152	寺山 政秀	会員
会計監査	128	岡部 洽	会員
会計監査	134	鈴木はるみ	会員



我ら昭和世代

杉山 友一



新型コロナウイルスの猛威が世界を覆い人々を恐怖に陥れている。日本の緊急事態宣言も5月末まで延長された。地球規模の感染症の顛末は歴史的にはその都度社会変革の大きなきっかけとなったことが証明されている。だとすれば、今回の新型コロナウイルス感染症終息後の世界、日本は、今度は新生社会の構築に向かって生みの苦しみを味わうことになるに違いない。一方で、視点を変えて、日本国の栄枯盛衰は明治以降およそ40年を一つの周期としてアップダウンしてきたとの括りがある。明治新政府後40年かけて近代化を果たした日本は、その後40年かけて国力を疲弊させ昭和20年の敗戦に至る。当時小学4年生だった老生は、米の飯が食えずに代用食で過ごした終戦

直後の記憶を忘れることはない。さてそして次の40年、それはまさしく我ら昭和世代の成長の記録である。振り返ってみて欲しい。昭和25年に勃発した朝鮮戦争、米軍への軍事物資の供給基地として日本の産業界が活気づいた。その後時代は、昭和30~32年「神武景気」、34~35年、「岩戸景気」、38~39年「東京オリンピック景気」、43~44年「いざなぎ景気」と続き、その後ドルショック、オイルショックを挟みながらも49年からは日本列島改造景気が時代を煽った。そして、いよいよ最後のお祭りがやってくる。61年12月から始まったバブル景気である。この景気の期間は意外と長く53ヶ月続いて(最終株価38,915円)平成3年4月に終焉した。さてそれでは、いよいよその後の下降期間とされる40年をどう見るかだが、鼻高々の昭和からバトンを受けた平成の30年間の国力はGDP 530兆円レベルにびたりと張り付いて成長が見えない、止まったままのぬるま湯の30年であった。そして、令和に入って描かれる将来展望は、一説ではAI(人口知能)プラスIOC(攻撃防御システム)、それに加えて5Gから6Gへ(移动通信システムの更なる近代化)の3要素が新時代を創造すると言われているのだが、浮沈の周期40年説に従えば日本の国運は向後10年はまだまだ下降線上にあるということになる。

新天皇が即位して1年経過、令和新時代の特色は、極端な少子高齢化社会の財政負担増加、それを支える側の産業構造は非正規雇用が3人に一人の現実、男性の4人に一人が生涯未婚という社会、つまり我々昭和の時代には至極当たり前だったこと、誰でもが能力に応じて真面目に働きさえすればそれなりの人生が送れたという日常が消えているのだ。そこに今回はあろうことか新型コロナウイルスの災禍がこの上なく重くのしかかってきた。国や自治体は4月、5月と全国的なステイホーム作戦でコロナ感染症の封じ込めを図ったが、経済的なダメージは余りにも大きく、コロナの死者とは別に経済問題が原因の自殺者が年間で1,000人規模に膨らむとの予測も出ている。つまりは、国破れて山河ありコロナ収めて国沈むという皮肉な現象が起きようとしているのだ。かくして、これからの10年は殊更に至難の時代ということが見て取れる。そんな中で懸念されるのは、近年社会学者が盛んに警鐘を鳴らしているテーマが

高齢者を対象とした若者たちによるアパートヘイトだ。シニア世代が、若者たちの犠牲の上で安楽を決め込む姿に異を唱え、いずれ階級闘争に発展するという問題提起なのだ。成長一直線の昭和時代を満喫し、その余力で平成の世をやり過ごし、最後の令和で身に降りかかる火の粉と言う凶式が見えてきた。

そんな折、高齢者の心構えについて作家の五木寛之さんはこう指摘している。その第1は、何よりも若者世代の対高齢者への認識の実態を強く認識すること、「気づくこと」ではないだろうか。知らん顔は如何にもまずかろう。第2は、高齢を理由に社会に寄り掛かり過ぎないこと、可能な限り自立の精神を保つことに注力したい。第3は、元気な高齢者は仲間である高齢弱者へ力を貸すことも必要だろう。第4は、出来れば若者世代と時間を共有できる活動に参加し、相互理解が深められれば最高だ。第5は、何と云っても、高齢の段階に応じた自身の死生観(ゆるやかな宗教意識とでも言いましょうか)の確立ということになるのではないかと。ともあれ先の大戦後、経済大国へ一直線、高揚感に沸いた昭和の時代から、ぬるま湯に浸かったままの平成をそのまま引きずる令和時代の始まり、更に今過酷なコロナパンチが加わったという窮地の中で、我ら昭和高齢世代の自覚、余生の在り方が改めて問われている。良識の府たるべきプロバスクラブのテーマは尽きない。

私のボランティア活動

岡本 宝蔵



私たちは「まちなみの景観」を少しでも良くし、住みやすい安全な街にしたいと願っています。その為には、道路や歩道上、電柱、道路標識等に違法に掲出された立て看板やのぼり旗、カラーコーンの貼り札などの「違反屋外広告物」を撤去しなければなりません。

八王子市ではこうした違反屋外広告物の撤去を市の職員や委託業者、市民のボランティア協力員などによって行っています。市民の協力員は市の発行する「身分証明書」と「違反屋外物除去の協力員としての腕章」を身に付け、約150名の方々が地域ごとの活動しており、私も参加して約5年になります。

違反屋外広告物は時代とともに変化して、5年前は風俗の広告 DVD 販売の貼り紙が多くありましたが、3年ほど前からは金融業が、現在は不動産販売の違反屋外広告物が多くなっています。

八王子市における違反屋外広告物の推移をみますと、2017年には年間6,387枚もありましたが、翌2018年には4,353枚と減少させることができました。2019年度は全体で3,511枚あり、このうち市の職員と委託業者の対応で処理したものが2,013枚、市民ボランティアの協力による処理が1,498枚と全体の43%にも上っています。

このように、市民協力員の皆様方の尽力で毎年違反屋外広告物を減らすことによって「まちなみ景観」が維持されてきておりますが、まだまだ年間3,500枚もの違反屋外広告物が存在しています。更に減少させ、より良い「まちなみ景観」を実現したいものです。

自分たちが住む街の景観をよくするために、当クラブの会員の皆様で、お力添えいただける方は一緒に活動してみませんか。八王子市役所の窓口は「まちなみ景観課」(042-620-7267)です。協力員として登録していただき、ご参加をお待ちします。

情報委員会からのつぶやき

いつもの年なら一年で一番活動的な5月が静かに終わった。不要不急な外出を控えての窮屈な5月でもあった。プロバスの活動も3月～5月は例会も中止。メイン事業の生涯学習サロンも準備万端に整えての中止。各委員会活動も休止状態が続いた。

飯田会長もご挨拶の中で、「達成感・燃え尽き感のない一年」と嘆いておられますが、情報委員会も活発なプロバス活動があつてこそその活動であり、プロバスだよりでお知らせする「中身」が全くなくなってしまった。クラブ発足以来、既に294号の発行を重ねるプロバスだよりの伝統を消さないためには、休刊することもならず、会長挨拶と幹事報告、会員の投稿で繋いできた。

ここにきて、コロナの状況にも少しばかり明るさが見えてきた。一日も早い情報活動が活発に出来る日の到来を待ち望んで止まない。今月号も4ページ建てで発行することができた。会員各位の積極的なご協力に感謝しつつ編集の筆を擱きたい。

私の一句〈五月の句会から〉

河合 和郎

5月の定例会も中止となった。俳句同好会も例会が開けず、ネットを介しての紙上句会となった。作品にもコロナ関連が多数登場。緑に燃える自然を横目に暫くの辛抱が続きそう。

不要不急百均で足る夏隣 下山 邦夫

不要不急の外出無用の制約の日々。当座の買い物も暇つぶしも百円均一のお店で。庶民の生活の知恵。

便りまつ百万本の赤いバラ 飯田富美子

女優に恋をした貧乏絵描きの悲恋物語。広場を埋め尽くした薔薇を見ただけで女優は次の町へ。

菖蒲湯やコロナ封じを念じつつ 馬場 征彦

子の健やかな成長を願う菖蒲の湯。コロナの邪鬼も一緒に払って欲しいとの願いを込めた一句。

疾除け鍾馗頼みの武者飾 野口 浩平

コロナ退治を鍾馗様にお願いする発想。鬚の鍾馗様ならコロナも退散させてくれるに違いないと。

青麦の土寄せしかと根を張りて 東山 榮

最近では麦畑を見かけなくなった。揚句は麦畑の生き生きとした風情を詠んで懐かしい。追憶の一句。

藁葺きの軒に願ひのあやめ草 矢島 一雄

五月の節句に菖蒲草を軒に飾る行事も稀になった。邪鬼払いにコロナ払いを重ねての願望の一句。

音立てて草丈伸びる五月かな 池田ときえ

夏に繁茂する雑草の勢いを詠んで力強い一句。「音立てて」の措辞にみなぎる逞しさを表現。

いらっしゃい百合の香りの向かうから 田中 信昭

花屋さんの店頭の光景か。話し言葉の柔らかさが効果的。「百合の香りの向こうから」が上手い。

コロナ禍や人影消へし街薄暑 河合 和郎

今年の五月は緊急事態宣言で街から人影が消えた。好季節に家籠りの難行。一日も早い終息を。

編集後記：杉山会員が寄稿文で大変示唆に富んだ提言をされ、コロナ後のプロバス活動の方向性をも示唆されている。まだまだ続くコロナとの戦い。兎にも角にも健康第一で乗り切りたいもの。各位のご自愛を
情報委員会